

ウイルス感染症



水ぼうそう

重要ポイント

- 水ぼうそうは発疹と発熱を伴うウイルス感染症です
- 発疹は頭や首、胴体によく見られます
- 伝染危険期は約7日間（発疹前2日、後5日）
- 発疹が完全にかさぶたになるまで学校、幼稚園、保育園を休ませる
- 乾いたかさぶたは非伝染性
- 対症療法や発疹の二次感染を防ぐ治療が施されます

症状

水ぼうそうは **varicella-zoster** というウイルスによって起きる、普通に見られる感染症です。熱があって元気がない状態が1日か2日続いた後、皮膚が赤変し、ついで小さな赤い（皮膚の色が濃い場合は紫色または茶色）発疹が大きく広がります。2日から4日後にはそれが白く水ぶくれになり、膿を出し、数日後には乾いてかさぶたになります。

発疹は頭や首、胴体に多く見られますが、腕や脚にできることもあります。数は人により様々です。

水ぼうそうに一番かかりやすいのは2才から10才までの子供です。感染者に接触してから二週間ほどで発熱と発疹が始まります。発疹が出る2日前から5日後までが感染期です。かさぶたは伝染しません。いったん水ぼうそうにかかると長期にわたって免疫ができ、二度感染することはまれです。

予防法

人にうつさないために、発疹が完全にかさぶたになるまでは学校、幼稚園、保育園などを休ませる必要があります。水ぼうそうのワクチンは標準予防接種プログラムには含まれませんが、入手可能です。1才以上の子供に一回の注射で接種します。

治療法

水ぼうそうに対して特に対ウイルス治療をする必要はほとんどありませんが、熱を下げ、発疹への細菌の二次感染を防ぐ治療を行います。細菌に感染すると痕が残ることがあります。殺菌作用とかゆみ止め効果のあるバスオイルの使用が有効なこともあります。発疹への二次感染を予防するために消毒薬を用いても構いません。

Japanese – Chicken Pox

より詳しい情報の入手先：

母子健康看護師

薬剤師

かかりつけの医師

皮膚科専門医

© 2002, Department of Dermatology, St. Vincent's Hospital Melbourne, Victoria Parade, Fitzroy, Victoria 3065 Australia.